

# 神小だより 第3号

6月号

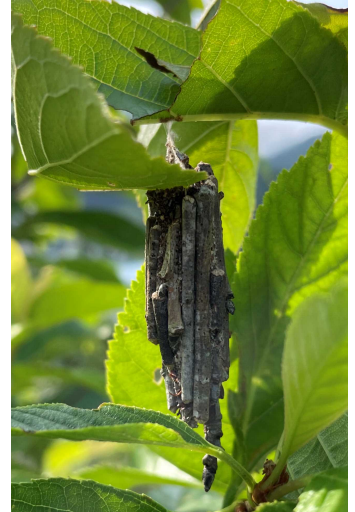
## 1学期の振り返り地点を通過しました。

新緑と爽やかな風の中で過ごした5月が過ぎ、雨に濡れた紫陽花の色が目にも鮮やかに映る季節となりました。今年は梅雨入りが遅く、時同じくして、水泳学習が始まります。天候や気温の関係で水泳学習が行えず、子供たちにとってヤキモキする日もあると思いますが、今月も健康で元気に過ごしてほしいです。

毎朝、正門で子供たちを迎えていると、朝の気温と空気から、季節が移り変わっていくのがよく分かります。そうした中、校門や私の姿が見えると50m程先からでも「おはようございます。」と、はつらつとした元気なあいさつができる子、加えて、目を合わせてあいさつができる子、自ら進んで地域の方々にあいさつできる子から、たくさんの元気をもらっています。私は、子供たち一人一人とあいさつを交わす時間がとても好きで、素敵なお日のはじまりになっています。子供たちにとっても、すがすがしい1日のスタートになっていけば嬉しいです。

1学期も早いもので振り返り地点を通過しました。ゴールデンウィーク明けから、子供たちは学習や運動、校外学習や学校行事をとおして「めざす子ども像」が示す姿になるよう、自分のよさを伸ばしながら必要な力を育てています。

各学年の様々な学習活動等は、ホームページ「活動報告」をご覧ください。



正門近くのみノムシも4月よりずいぶん大きくなりました。

## 「人生100年時代」に向けた体力づくりの第一歩!

## 体力テストを実施しました!

全国的に子供たちの体力・運動能力の低下が問題となっています。徳島県では、肥満や睡眠不足の傾向が高いなど、体力面の弱さや生活習慣にかかわる課題が明らかになっています。本校においては、体力・運動能力における走力・持久力の低下が課題ではありましたが、その改善に向けて体育科学習・活動の充実、社会体育での取組によって、今年度はその課題を克服しつつあります。

子供の「健康・体力」は何をするにも必要な「土台」となるもので、子供の時の運動・生活習慣は将来の生活にもつながります。人間の寿命について、イギリスのリンダ・グラットン著「ライフシフト」に、2007年生まれの子どもの半数が「①107歳まで生きる。②平均寿命世界1位の国をグラフ化すると、寿命が2年ごとに平均2-3年のペースで上昇している。」と記されています。つまり、今神領小学校に通う子供たちは、100年以上生きる時代を過ごすことが確実です。そこで求められていることは100年耐用性のある骨と筋肉で、その骨等を作るための「子供時代の運動」です。

「子供時代の運動」では、幼少期からの運動習慣から成る基礎体力づくりが重要です。そして丈夫な骨を作るための「10代の頃のスポーツや運動」が大事で、走ったり跳んだりして骨への荷重刺激を与えることが必要不可欠といわれています。

生活習慣を整え栄養をしっかりとりとともに、小中学校の時期に骨に刺激を与える走・跳などの運動を適切に行い、骨を作っていくなければなりません。ご家庭でも、引き続き「早寝・早起き・朝ご飯」に加え、栄養のバランスのとれた食事や、多様な運動やスポーツに親しめる機会をつくっていただけますよう、ご理解とご協力をお願いいたします。



※体力テストの項目は、50m走、上体起こし、長座体前屈、反復横跳び、立ち幅跳び、20mシャトルラン、握力、ソフトボール投げです。



## 体力アップ活動が始まりました!

体力アップ活動が始まりました。第3・4木曜日の昼休みに運動場や体育館で、ラグビーや陸上運動を中心に実施していきます。

体力の向上はもとより、対話力や思考力・判断力・表現力も高めてほしいです。



タグラグビーは、広い場所を走り回るので運動量が豊富で、体力づくりにもうってつけです。守り方はボールを奪うのではなく、相手の腰の左右に垂らした「タグ」と呼ばれるテープを取るだけ。ぶつかり合わないので安全で、敏捷性やバランス感覚を上手に鍛えられるうえ、勝つための個人技術や連携戦術が必要なので考える力も身に付きます。また、試合での戦略課題に対して、問題解決プロセス（問題認識→原因分析→対策立案→トライ＆エラー→振り返り）に沿って、解決策を模索し、思考力を高めながら俯瞰的に分析し、気付いたことを再び実技で実践して、チーム力を高めていきます。

## 自分の命は自分で守る!(交通安全教室で学ぶ)



交通安全教室を実施しました。ここ数年雨天で、長らく外での実地練習等はできていませんでしたが、今年は眩しいくらいの晴天に恵まれ実施できました。子どもたちが持参した自転車を、早朝から自転車組合の河野さん、出淵さんに点検していただきました。徳島名西警察署交通係・神領駐在所の警察官の方、交通安全協会神領分会長さん、名西郡交通安全指導員さん、交通安全保護者の会の皆さんにもお世話になりました。児童会の進行で開講式が始まり、代表の6年生に続いて、全員が「交通安全誓いのことば」を確認しました。それから1・2・3年生は、交通指導員さんから腹話術の人形を使った交通安全のお話を聞き、交通ルールを守って生活しようとする意識を高めることができました。その後、安全な歩行や横断の仕方を駐在所員さんに教わりました。

4・5・6年生は、運動場にコースを設定し、安全な自転車の乗り方について実地練習を行いました。交通係の警察官による指導を聞きながら、出発の時や曲がる時には、必ず後方や横・前方を確認することの大切さを理解し、コースに従って右折や左折の仕方、信号機のある横断歩道の渡り方などの学びました。学んだことを忘れずに、自分の命は自分で守り、事故には絶対に遭わないように気をつけてほしいです。ご指導・ご協力いただいた皆さん、暑い中たいへんお世話になりました。ありがとうございました。



## 『思いやり』『気配り』『傾聴』 2年生が1年生をリード『がっこうたんけん』

1・2年生の「がっこうたんけん」がありました。校長室も探検場所のひとつです。皆緊張した面持ちで「失礼します」と来室すると、意外な来客に驚きながらも冷静に、2年生は説明したり質問したりして、立派に校長室を1年生に紹介しました。さすが!説明名人の2年生!!聴き名人の1年生!!きつどの探検場所でも、1年生に優しく接し、役割を果たしながらしっかりと案内する2年生だったにちがひありません。頼もしい限ります。



## 校長室より徒然なるままに『ふと思うこと』

子供たちには、できなかったことができるようになることが毎日のようにあります。「苦手だったものが一口食べることができた。鉄棒で逆上がりができる。早く走れた。算数の難しい問題が解けた。皆の前で発表できた。」など、教えてもらったこと、できるまで努力したこと、失敗したことなどの体験を重ねて、「できた」「わかった」を実感するとともにその喜びを味わい、子供たちは成長します。そして、その成長が子供たちの可能性を示しています。大人のものさしでは測れないくらい子供の可能性は無限大です。

子供たちの成長には個人差がありますし、学齢によっても目指すべき成長の用途は異なりますが、学びをとおしてどの子も必ず成長します。そして、できるようになったことを友だちや大人に認められたとき、子供は満面の笑顔で、更なる高みをめざすようになります。だから大人は、子供たちができるようになったことを逃さず、認め、タイムリーにほめることを大切にしなければなりません。

私自身、年を重ねるごとに新たにできるようになったことはほとんどなく、現状維持をすることに必死です。しかし、ここ最近、維持とは程遠く、いままでできていたことができなくなったことに直面し、ショックを受けることが多々あります。気力・体力ともに衰えるのは、年を取ることの必然であり、抗うことはできません。だから子供たちの成長や変化に心を動かされ、日々感動の連続です。どんどん成長していく子供の姿を認め応援することで、心身ともにエネルギーになっていく自分に気付くことができます。「がんばったね」「すごいね」と認め、ほめているときの私は、きつとその子供に励まされているともいえるかもしれません。

子供のありのままの姿を受け止め、全力で応援できる大人でありたいと思う今日この頃です。



真剣なまなざしでミニトマトのお世話をする子供たち